

磐城時報

日刊 五月 十

福島縣石城郡平町野崎
編輯兼發行人 岡田弘成
印刷 印刷所 加納活版所
電話 印刷所 加納活版所
發行所 磐城時報社
第一號 金一圓 一月 金十圓
廣告料 二行 五日 金五十圓
日刊 日曜祝祭日 翌日 休刊

賢明な平町民各位に 深甚なる御考慮を願ふ

野崎 滿藏

平町當面の重大問題として町民諸賢が多額の關心を持たれる磐城炭礦出願の平町郊外地下採掘問題は平町の態度を決定すべき最後の町會に於て吾々が熱心研究の結果是なりと確信した主張遂に容れられず二年間保留に決し町當局はその旨仙臺鎮山監督局に陳情致しました。監督局では考慮を約した由です。恐らく磐城炭礦と折衝し最近に今一度町會に諮問の上態度を決する事と思はれますが、同問題に關して平町の區長は町民に採掘反對の調印を求めてその筋に陳情の準備をする等全く平町の大問題と化した傾向があります。吾々はこの問題を論じ態度を決する前に平町が過去に於て總ての問題を處理するに當り往々に感情に支配され面目維持に拘泥したため如何なる失敗を招いたか之がため町將來の發展を妨げ阻害し更には本邦西部諸都市が炭礦發展の影響により不斷の繁華股賑を極めて平町現狀を見て吾々が平町郊外地下採掘問題の結果如何が平町將來に及ぼす影響が重大なるものがある事を痛感されますので私は敢て町民各位に同問題に對しては感情を離れて公平無私、全く白紙の態度で之に臨み平町將來の利益を主眼として善處されるやう慎重な御考慮を切望して止まない所以であります。

平町が過去に於て大問題に遭遇し感情や、面保持に左右されたため今では取り返しのつかぬ失敗として後悔されてゐる實例を考へて見ませう。

第一、平町設置
常磐鐵道布設に際し日本鐵道株式會社は平町を平町の南方即ち新川向へ設置する設計の處二、三の有力者が騒ぎ出し平町は水害の爲に潰滅する

第二、郡立農蠶學校設置
郡制廢止一年前に當時の郡長佐瀬剛氏は平町に郡立農蠶學校新設の提案をなしたが、某政黨に屬する議員が感情に支配されて反對し否決した。その當時設置されてゐたなら郡制廢止と共に縣に移管して現在の縣立實業學校に昇格して現在た事は他の例を見て明白な事である。中通りや會津方面に實業學校が設立せられて縣勢六分の一を占むる本町には縣立實業學校の一枚も無い事は洵に遺憾に堪へない事である。

第三、平町電燈問題
平町の電燈は資本金七萬五千圓内外の株式會社が電力發電所に於て配電してゐたが郡山電氣會社が十五萬圓を買収したいと申し込んだ時株主は大抵之に賛成せんとした。聞く松崎松治の兩氏は平町若しくは平町有志が之を買収すべきものであると飽くまで反對した。が少數意見で容れられなかつた。現在平町から一ヶ年四十年の電力料が上がるのを見て大正十三年平町電氣株式會社が好問川に大瀧發電所設置を計る。對して平町の一部の人々は水道に悪影響を齎すと、理由由で反對した。私等は水道に有利でこそあれ、私等は絕對に争の結果この大事業を平町に經營させない。考へ私等が社長時代の水利権の無償讓渡經營する條件を平町に交渉した。然し條件を平町保持の關係で拒否された。平町があの時大雅量で以て大瀧發電所を經營する事にしてゐたら水道擴張工事に利益であつたばかり

でなく、電氣料を儲け、動力を平町に供給する等莫大な利益であつたと思ふ。即ち平町を水道に於ては十一萬圓で買収したのが僅か二年間は大目保持に拘泥して處理したため、張工事を進行し向う拾萬圓は経過して三十七萬圓の豫算で擴張を余儀なくされた。夫れは發電所設置後は水糟分水、技術上最も有利となり反對の面目が丸潰れとなるので急遽言明を裏切つて計畫したのである。當時自分等六名の議員に物價下落と議会の言明を理由として之れに反對した。遂に認可を一年八月延期した。八拾圓となり、六圓のセメントは三圓以下となつた。外一派は役場派となり青沼氏の大削減を行ひ遂に七拾萬圓の豫算が平町にとつて十二萬圓の利益を得たが、當時私等何に活況を呈し繁華を極めてなら更に十餘萬圓の工費を節約する。

第四、直方市(同)
同市の地下は全部掘り盡した。で現在では休山街となつてゐる。その昔炭礦旺盛の時代は、銀行等枚擧に達しない程に市政を實施したのだが將來に市政を實施する事によつて市の繁華を保持する事に努め魚市場その他産業關係のものを全部町營として資源開發に努めた。直方高等國民學校の如きは生徒の生産品のみで一年一萬圓以上を達して居る。一一般市民が如何に産業發展に留意するが如何に炭礦によつて發展した都市が炭礦に後退を極めてゐる例である。

第四、直方市(同)
同市の地下は全部掘り盡した。で現在では休山街となつてゐる。その昔炭礦旺盛の時代は、銀行等枚擧に達しない程に市政を實施したのだが將來に市政を實施する事によつて市の繁華を保持する事に努め魚市場その他産業關係のものを全部町營として資源開發に努めた。直方高等國民學校の如きは生徒の生産品のみで一年一萬圓以上を達して居る。一一般市民が如何に産業發展に留意するが如何に炭礦によつて發展した都市が炭礦に後退を極めてゐる例である。

第一、宇部市(山口縣)
同市では明治十九年共同議會を市民のみで組織し同市地下の採掘全部を獲得して石炭を採掘した結果、現在では市街地下全部を掘り盡した。坑道を海に進め既一里余に及んで、底は海岸理立に使用した土砂塊は海岸理立に使用した土砂果四十五萬坪の埋立地が出来築港を計畫してゐる。現在の市役所の敷地はもと緑の濱と稱する白砂青松の海岸であつた。今日市中央は埋立てられたり、埋立地を百二十萬坪に擴張する筈であるといふが、是れ全く地下採掘の賜物である。是事による利益は全部市民が有する事になつてゐる、同市の地

下二百尺、三百尺の箇所を採掘した處は地表に影響を以てゐるが、六百尺以上の處には全く影響が無く海底の坑道にも侵水等の憂ひが皆無である。この地層に龜裂が生じない證據である。同市の地下は今から二百四十年前の延寶時代から採掘してゐるが、實時代から採掘した代表者渡邊祐策氏の卓越した手腕と時代を遂観した見識によるもので、九七八〇〇噸で、未採掘炭量は其八倍強の、四八三、七九二、〇〇〇噸であるから前途更には遠達有望と見られてゐる。石炭採掘の影響によつて宇部セメント(一、四〇〇萬圓)宇部窒素工業(一、二五〇萬圓)日本マグネシウム(七、〇〇萬圓)その他日本發動機油、宇部鐵工所(一、一五〇萬圓)戸畑總會社(二、五〇〇萬圓)宇部紡績會社(二、〇〇〇萬圓)その他大會社、銀行等枚擧に達しない程に立せられて居る。かくして明治三十八年には戸數二千、人口一萬人に過ぎなかつた一寒村が現在人口七萬を算する大都市に躍進してゐる。

炭礦によつて發展した 本邦西部諸都市を見よ

羨望に値する繁華股賑

下二百尺、三百尺の箇所を採掘した處は地表に影響を以てゐるが、六百尺以上の處には全く影響が無く海底の坑道にも侵水等の憂ひが皆無である。この地層に龜裂が生じない證據である。同市の地下は今から二百四十年前の延寶時代から採掘してゐるが、實時代から採掘した代表者渡邊祐策氏の卓越した手腕と時代を遂観した見識によるもので、九七八〇〇噸で、未採掘炭量は其八倍強の、四八三、七九二、〇〇〇噸であるから前途更には遠達有望と見られてゐる。石炭採掘の影響によつて宇部セメント(一、四〇〇萬圓)宇部窒素工業(一、二五〇萬圓)日本マグネシウム(七、〇〇萬圓)その他日本發動機油、宇部鐵工所(一、一五〇萬圓)戸畑總會社(二、五〇〇萬圓)宇部紡績會社(二、〇〇〇萬圓)その他大會社、銀行等枚擧に達しない程に立せられて居る。かくして明治三十八年には戸數二千、人口一萬人に過ぎなかつた一寒村が現在人口七萬を算する大都市に躍進してゐる。

長から非公式に採掘問題が提案つてゐる所以である。又議員中
 された際は反対すべきでないことは青沼町長が絶対反対を唱へ
 いた意見は吐いた有力者で今日で居るから我々も止むを得ず反
 対して居る人がある。現對して居ると言ふて居る弱腰議
 員に井上議長の如きも一人であらう。感情に支配された私思

調査委員会の意見 採掘同意に決定

町會前日に態度一變

私等の九州方面炭礦視察の調査變更したもので、之は委員會が
 を不信としてか平町では四百二或る制附をうけた結果と言へ
 十五圓を投じ七月二十五名の余りにも明瞭を欠く不確かな行
 調査委員を九州に派遣した、委員ども呆れた次第である。兎に
 員は十九日歸平し翌二十日偶々角委員會の意見が條件を附して
 選舉正委員會が開かれたので同意賛成する事に一度決した
 前記五名の委員は「調査報告書は地下採掘を有害でないとい
 を作製するの日に時をおけば他れた證據と言はねばならぬ。そ
 から制附をうける虞れがあり使れにも拘はらず殆んど無關心の
 命を公平に全ふし得ない事がある。區長等をして反對調印をせ
 つてはならぬ」と意見一致し會等は平町の前途を誤らしめる
 終了後午前十一時半町役場に會同の結果、委員中佐藤幸太
 合し委員會の意見を纏めた結果、郎氏が帝國農會幹事長で鐵毒
 月見町の地下採掘を減額せし、價の権威者である法學博士平田
 める事。新川から六十度の傾度治氏を訪れて研究した説によ
 斜内は掘らしめぬ事。一噸か
 ら一圓を出させる事。
 を條件として採掘に同意賛成す
 る事に一致し報告書の清書を多
 田井、猪狩の兩氏に依託する事
 になつた。條件の内容は如何で
 あつても兎も角も調査委員は地
 下採掘には反対すべきでない有
 ○な條件を附して賛成すべきも
 のと意見の一致を見たのである
 然るに二十日再び委員會を開
 き前掲の意見は發表せぬ事、被
 害調査報告のみを發表する事
 によ。

遂に面目保持に終つた 平町會の決議案

注目すべき監督局への一札

態度を決定する七月二十六日の二ヶ年試掘に留めておきたい
 最後の平町會に於て前回の町會いふ建議案が提出されたので私
 まで最悪の案として顧みられなは之に反對し別に私の建議案と
 かつた仙臺嶺山監督局瀧尾技師
 の調停案の第三案、即ち今後
 日本に於ける石炭採掘の權威

者である東京帝國大學教授佐
 野秀之助博士を招き平町の地
 質について實地調査を乞ひ町
 會議員、町民有志にその結果
 の説明を願ひ地表に影響なし
 といふ意見であつた場合は
 瀧尾技師の第一案、若くは第
 二案に同意して磐城炭礦に直
 接交渉して利益を収むる事
 は從來賛成してゐた私等も釋
 然として態度を改め町會議
 員一致して反對する、佐野博
 士を招くに平町として金
 が都合が悪いといふ場合は
 商工省礦山局技師に調査を乞
 ふ。この準備處置には最の調
 査委員五名に委任する。
 といふ再調査案を出した。この
 建議案は少數で否決されたが、
 町當局並に反對議員の意中も再
 調査に賛成ではあるが感情と面
 目上反對したものである事が最
 近判然とした。
 町會の決議による二年間保留案
 を携へて七月二十九日青沼町長
 以下委員七名が仙臺嶺山監督局
 に出頭し種々陳情した。朝令
 春改を憂慮した局長は左の如き
 陳情趣旨の一札を青沼町長以下
 に要求した。

昭和十年七月二十九日仙臺嶺山
 監督局に出向一局長、鑛業課長
 星廣臨席)面談し左の趣旨の陳
 情をなせり
 一、磐城炭礦株式會社に於て現
 在平町地内に採掘中の石炭採
 掘は平町市街地に支障を及
 ぼす恐れありや否や専門的に
 調査をなす迄今後二ヶ年間其
 拒否を保留せられたこと
 但し右調査に基き其期間内に
 試掘何れかの方針に對し町
 會の態度を決すること
 二、右採掘出願地に於て同會社
 が試掘の轉願を爲したる時監
 督官廳より公益害の有無に關
 する諮問ありたる際は平町と
 申を爲すこと
 右覺の爲署名す
 福島縣平町 長青沼録太郎
 平町會議長 井茂 上作

町會議員萩原義雄、佐々木龍
 若、川崎文治、多田井次郎
 猪狩親徳、吉田五平
 會議員、町民有志にその結果
 の説明を願ひ地表に影響なし
 といふ意見であつた場合は
 瀧尾技師の第一案、若くは第
 二案に同意して磐城炭礦に直
 接交渉して利益を収むる事
 は從來賛成してゐた私等も釋
 然として態度を改め町會議
 員一致して反對する、佐野博
 士を招くに平町として金
 が都合が悪いといふ場合は
 商工省礦山局技師に調査を乞
 ふ。この準備處置には最の調
 査委員五名に委任する。
 といふ再調査案を出した。この
 建議案は少數で否決されたが、
 町當局並に反對議員の意中も再
 調査に賛成ではあるが感情と面
 目上反對したものである事が最
 近判然とした。
 町會の決議による二年間保留案
 を携へて七月二十九日青沼町長
 以下委員七名が仙臺嶺山監督局
 に出頭し種々陳情した。朝令
 春改を憂慮した局長は左の如き
 陳情趣旨の一札を青沼町長以下
 に要求した。

の一角は鐵材で釜屋で供給する由と言ふことになり、市制施行も
 である、縣下隨一と稱される富見合せるが能いと言ふ事になる
 豪釜屋の存在は平町としても名現在では採掘は地表に影響があ
 る事であるが、大釜屋とは言うが二年後には支障が無いとい
 へ附近農村相手では今日の富を仙臺嶺山監督局に差入た青沼
 築き上げ得る筈はないと思ふ。町長を初め井上議長外六名の委員
 平町周囲の炭礦の力に大半依る員の覺悟と同様のもので議員の
 事と信する。他の富豪も多く平任期は一年有余である。二ヶ年
 町の繁榮も同一である。事業が後の平町としての責任を負ふべ
 物興すれば資本が集注する、而も證書を監督官廳に差入るとい
 して人が集合する消費と生産とふ事は無責任も甚だしく所謂町
 が相俟つて其土地が繁榮する。政を龍斷するものと攻撃されて
 過般の町會に炭礦が平町に出来も答辯の辭があるまいと思ふ。
 れば學校も必要だし衛生の設備平町自身の永遠の福利増進のた
 もしなればならぬから、あめ公平に慎重に考慮して地下採
 ながち繁榮ばかり想像は出来ぬ掘に對する態度を決したいと希
 いと云ふ愚論も出たが、夫れで望して止まない次第であります
 は大平市を建設しない方が能い

小生儀先般來步兵第二十九聯隊に召集中
 のごころ今解除歸平仕候尙從前通り診
 療に従事可仕候間一層の御鞭撻御庇護賜
 り度奉懇願候
 昭和十年八月
 平町白銀町(電話三三六番)
 高柳耳鼻咽喉科醫院
 高柳博明

磐女講堂新築費に
 壹萬餘圓を投げ出す
 炭礦王小田吉治氏の俠氣
 縣下一の學級数を誇る磐女に從吉治氏が持ち前の俠氣を出して
 來講堂がなく困却してゐるのを工費一萬三千圓を單獨で全額寄
 附した小田吉治氏が一枚一萬三千
 圓の巨費をポンと投げ出して炭
 礦王小田吉治氏を見て世間の人
 々に反物一人一反宛買ふとしても
 二萬五千反で、この外生活必需
 品のみでも巨額に達するのであ
 る。平町二十餘軒の鐵工場は生
 産一ヶ年五千萬圓と言はれてゐ
 る、四月から八月まで入山、古
 河の兩炭礦で撰炭機及び附屬品
 で平町の鐵工場に注文した額三
 十萬圓であるといふ。その三分

喜びを兼ねて二つの記念に
 この大枚の寄附を決意するに
 至つたもの
 昨十四日午後小田氏宅に正木
 女校長、青沼平町長、柴田平
 野崎議長等が會合正式に寄
 附決定した。小田氏は十七日
 に寄附採納方を願出ることにな
 った採納決定次第工事に着手
 春の新學期までに竣工を急ぐ管
 四倉甲種合格者
 四倉町十年度に於ける壯丁八十
 五名検査は、十一日の二日間
 左記二十六名
 永井清、永野一、鈴木春政
 菅波正廣、岡田正見、猪方庄平
 塩田正勝、長谷川定二、小松寅
 次郎、片寄彦三郎、久保木傳次
 郎、長谷川要太郎、信田信一
 金成重、金澤竹次郎、村松
 之助、前川幸助、前川榮助、前
 川和吉、古館太郎、大下竹次郎
 佐々木太郎、千葉正一、古田徳
 次郎、根岸久一、長谷川久太郎

美味で
 評判の
 サロン
 平町田町
 電三五二

京 東 髮 理
 平町三丁目 電話三三三三